

本資料は2015年11月15日付で技術諮問委員会より提出された報告書に対して、NRRC 所長より出した返信レターを参考までに原子力リスク研究センターにて仮訳したものです。正式なレターは英文版の原文のみとなりますのでご注意ください。

原子力リスク研究センター  
一般財団法人 電力中央研究所  
〒100-8126 東京都千代田区大手町 1-6-1

ジョージ・アポストラキス  
NRRC 所長

2015年12月14日

ジョン W. ステットカー氏  
技術諮問委員会委員長

件名：2015年11月15日付報告書「伊方確率論的リスク評価モデルの現状および推奨される研究」

ステットカー委員長

2015年10月26日から30日に実施された原子力リスク研究センター（NRRC）技術諮問委員会の第4回会議で、委員会には伊方3号機 PRA 改善の進捗について議論を頂いた。

標記報告書において、委員会から、内的起因事象の評価のための PRA を先行事例と比肩するレベル（State-of-practice）に高める取組みに関して PRA チームは素晴らしい前進を遂げていると結論を出して頂いた。

また、我々は委員会から、日本の原子力産業界と協力して、PRA において以下の現象への対処を改善するための研究、方法論、ガイダンスを策定することを推奨された：

- 特定のシビアアクシデントのシナリオ中に起こる蒸気発生器伝熱管の誘因破損
- 蒸気発生器1基の複数本の伝熱管破損による起因事象
- 原子炉冷却系の圧力にさらされる隔離弁および低圧系統からの漏えい率
- プラント固有の起因事象頻度を定量化するモデルにおける共通原因故障の取扱い
- 外部電源喪失の原因、頻度、継続時間に関する全国レベル、地域単位、サイト単位でのデータの取扱い

我々は TAC からの推奨に同意し、必要な対応策を見極め、適切な活動計画を策定するために産業界と協力していく所存である。

伊方 3 号機のレビューに関する議論、および委員会から示された見解に感謝申し上げます。  
今後も本件について TAC とのやりとりを継続していくことを期待している。

敬具

ジョージ・アポストラキス（本人署名）